



丹原 史晶さん

子どものアトリエ七星主宰
昭和49年8月生まれ・岡山出身・2児の父親
保育士資格・色彩コーディネーター2級取得、
(株)ハート&カラー認定チャイルドアートインストラクター
ART&THERAPY 色彩心理協会実践会員

「この前のやり方をよく覚えていたね。だんだん上手になるね」とか「この前より、この所ができるようになったね」と、具体的に示します。そうすると自分のことをいつも見ているという安心感が生まれ、意欲へとつながっていきます。

自分をしっかり見てくれているという安心感が、素直な気持ちをも育てます。その安心感を持っているかどうか、子どもとのコミュニケーションが成立しているかどうかの目安になります。

「この前のやり方をよく覚えていたね。だんだん上手になるね」とか「この前より、この所ができるようになったね」と、具体的に示します。そうすると自分のことをいつも見ているという安心感が生まれ、意欲へとつながっていきます。

自分をしっかり見てくれているという安心感が、素直な気持ちをも育てます。その安心感を持っているかどうか、子どもとのコミュニケーションが成立しているかどうかの目安になります。

子どもが安心感をしっかりと持っているはずが、コミュニケーションがうまくいっていないのは、目安です。

ほめ言葉が危ういと、子どもは大人の機嫌や顔色をうかがってばかりになりがちです。

私は、「子どもの「やりたい」とか「もつ」という意欲を高めていくために、子どもをほめます。「ほめて育てよう」ということはあちこちでよく耳にしますし、私も賛成です。ただ、「ほめる」という行為は、子どもの成長や親子の絆につながっているかどうか重要で、「危うい」ほめ言葉もずいぶん多いように思うのです。

大人は子どもに対して、絶対的に上という気持ちを持ってしまいがちです。「よくやったね」というほめ

言葉が、実はそういう大人の満足感を伝えるサインになってしまいうことがあります。

ほめ言葉が、要求したことに子どもが応えたことへの大人の満足感を伝えるコミュニケーションになってしまうと、子どもは大人の機嫌や顔色をうかがってばかりになりがちです。お母さんが喜んでくれることには頑張っても、それ以外のことは意欲や自律心が芽生えない危うさがあります。

また、「今日はよく頑張ったね」と声をかけているのに、子どもが嬉しそうでないことはありませんか。子どもたちは今日も頑張ったけど、たいていいつも頑張っています。昨

日のほうが、今日よりもっと頑張っていることだってあります。何を頑張ったのか。どのように頑張ったのか。それが言葉にならないと、子どもにとっては、おぎなりのほめ言葉にしかありません。

しっかりと見てくれているという安心感が、子どもの意欲につながります。

子どもはいつも自分のことを見ていてほしいと望んでいます。

その子どもの気持ちにしっかりと応えてあげるために、私はさまざまな経験のプロセスをしっかりと見ているということ、子どもに伝えるようにしています。「(こ

お母さんの手助けが、子どもの頑張りを、しばせることがあります。

ある日、女の子は段ボールで家を作るのに夢中になっていました。大きな作品を作るには、創作への自信と十分なエネルギーが必要で、そして、このような子どもの意欲に寄り添うために一番重要なのは、できるだけ安心して作れる環境です。

女の子は壁と床を短いセロテープで接着していました。女の子なりに一番確実に行ける方法を選んだのだと、直感的に分かりました。

でも、その様子を見ていたお母さんは、作業性と強度に不安を感じた

てしまったのです。子どもをよく見て、時には我慢して見守り、安心感を大事にする。その大切さを示す事例だと思えます。

子どものアトリエ七星・アウトライン
クラス 月2回第1・3週クラスと第2・4週クラス
(※)は2歳児が対象

水曜日	金曜日	土曜日
10:00~70分(※)	10:00~70分(※)	10:00~90分
13:00~90分	14:30~70分(※)	13:00~90分
16:30~90分	16:30~90分	16:00~90分
18:30~90分		

月謝 土曜日・月2回/5000円、
水曜日もしくは金曜日・月2回/4500円
水曜日もしくは金曜日・月2回(※)/4000円
問い合わせ TEL 086-284-8402 岡山市榴津953-4